

(一社)東京電機大学交友会 新潟県央電機会 第5回秋の交流会

Time スケジュール 日時 11月11日(土) 9時 長岡アオーレ 集合

(長岡駅 正面周辺)

9:20 ①長岡城遺構 お堀跡 見学(アオーレ地下駐車場)



(1644年頃、越後国古)



(1902年、二の丸内壕、宝田石油本社)

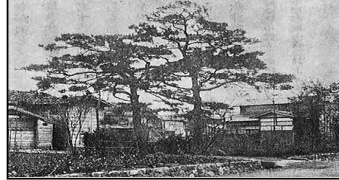


長岡城は1616年、堀直寄が現長岡駅周辺に築城、その後、牧野家が歴代城主となり戊辰戦争で炎上焼失。

9:40 ②河井継之助記念館 見学 ラストサムライを知る



(1827生～1868没)



(明治期、河合継之助旧宅跡地と跡地に達つ現記念館)



(ガトリング砲)

幕末期に長岡藩の家老を務めた武士。青年期に諸国を放浪し山田方谷、佐久間象山、斎藤拙堂などに学ぶ。長岡藩に戻ると多類まれなる行政手腕で藩の改革を行い、風紀肅正や農政改革、灌漑工事、兵制改革などを実施し成果を上げる。新政府軍と幕府軍の間で戊辰戦争が勃発すると、その手腕を買われ長岡藩家老に就任、軍事総督を任命される。武装中立を目指し新政府軍と直談判するも失敗、戊辰戦争最大の激戦とされる北越戦(古戦場 記念碑)に突入、新政府軍を苦しめるも敗戦。河井も銃弾を受け敗走の途中、会津塩沢で死去。

10:40 11:10 ③北越戦争 朝日山古戦場 見学



(朝日山)



(フランス式塹壕の跡)



長岡藩の拠点となった朝日山(標高341メートル)は、榎峠(えのきとうげ)等とともに新政府軍(西軍)の山道軍に対する要害であった。慶応4年(1868年)5月10日、長岡、会津、桑名諸藩連合軍がここに布陣し、野辺沢を隔てた山寺の裏山一帯に駐留した薩摩、長州を主力とする山道軍に対峙、以来約一週間激戦が繰り返された。

12:05 12:30 ④慈眼(じげん)寺 河井談判決裂の間 見学

慶応4年(1868年)5月2日、長岡藩家老河井継之助が藩主の嘆願書を持参、小千谷に本陣を置いた薩摩と長州を中心とした新政府軍の山道軍軍監岩村高俊と講和談判を行った寺で、会見の間が当時のまま残されている。岩村軍監は、嘆願書を見ることもなく、無条件降伏をせよと伝えられ、この談判は決裂した。結局長岡藩は、これ以降、藩を挙げて新政府軍と抗戦することになった。長岡藩の抗戦決定により、北越諸藩も隊列に加わり、新潟県内は広く戦場になった。



(会見の間)

13:10 13:30 ⑤料亭 東忠にて昼食(河井も食した さくらめし)



信濃川の舟運で栄えた小千谷の川港沿いにあり、近隣には江戸幕府の役所である会津藩の陣屋が置かれていた。小千谷の歴史を見つめてきた、伝統ある建物。木造三階建の割烹で、江戸末期建築の二階建に三階大広間を増築した。外観は建ちの高い真壁造で、1、2階に大小10室ほどの客室などを配し、要所に良材を用いた座敷飾を備える。小千谷縮や養鯉業による当地の繁栄を伝える料理屋建築である。慈眼寺で談判決裂した河井は、ここで昼食「さくらめし」を食べたと伝えられる。

14:45 15:20 ⑥牧野家資料館 ⑦蒼紫(あおし)神社 見学 牧野家とともに長岡の歴史は歩み文化は栄えた！！



(資料館 長岡城模型)



(歴代藩主の遺品)



(悠久山 お山さま 蒼紫神社)

牧野家は、元和四年(1618年)から明治4年の廃藩までの250年あまり、長岡藩主として長岡の地を統治した大名家。歴代藩主が使用していたものや牧野家の家紋である三つ柏がある多数の資料ほか、現在に伝わるゆかりの資料品々の展示を通して長岡藩主牧野家の歴史を紹介している。

蒼紫神社は長岡場内に建立されたが、9代藩主牧野忠精は、天明元年(1781)、現在のこの地を開拓、新たに社殿を造営、遷宮し社地を悠久山と名付けた。以来、神社は「お山さま」として長岡の人に親しまれ、悠久山は公園化され桜の名所となっている。

16:30 17:00 ⑧懇親会 日本海 庄屋駅前店 地酒等 飲み放題 牧野家に伝わる「十分盃」をお披露目予定！！



19:30 中締め

20:00 解散